



令和6年度
帯広畜産大学

教育の内部質保証に関する
自己点検評価書

令和8年2月10日
大学教育センター

本学大学教育センターにおける教育の内部質保証の自己点検・評価指標と評価基準の策定と改善進捗状況の可視化（公表）について

本学では、令和4年度から実施している第4期中期計画において、教育の内部質保証システムを効果的に駆動し、不断の改善が諮られていることを明示的に示すことを目的として、大学教育センターにおける「自己点検・評価の指標とシステムティックに評価できる基準の策定」及び「改善の進捗を視覚化しHPで公開」することを計画・検討しました。併せて、2022年度（令和4年度）実績を確認し、各項目において、その実績を踏まえ、令和5年度に向けての検証を行いました。

その後、令和6年7月25日に「帯広畜産大学における教育の自己点検・評価実施要項」を策定し、この要項に基づき、以下項目に係る2024年度（令和6年度）実績を確認し、検証を行いました。

・大学教育センターでは、以下の教育に関する項目について自己点検評価を実施しました。

1. 学部教育
2. 大学院教育
5. リカレント教育（共通）
- 5-2. リカレント教育（農畜産分野）
- 6-1. 学生支援（全体）
- 6-2. 学生支援（留学生）
- 6-3. 学生支援（障がいのある学生）
7. 就職支援
8. 学部入試
9. 大学院入試
10. 入試広報

・各項目の平均値等設定の例

- ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
- ②全国調査の平均値等
- ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	1. 学部教育
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R6年度実績	自己評価
1. 学生の授業評価（学部全体・満足度） ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	81.1%	87.2%	A
2. 学生の授業評価（獣医・畜産・満足度） ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	82.8%	88.5%	A
3. 卒業生の教育の満足度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R4年度の上記の実績（※R4年度から満足度確認のため）	74.1%	87.7%	A
4. 卒業後の進路の満足度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R3年度の実績	92.9%	94.5%	A
5. 教員のFD・SD参加率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	63.7%	60.0%	C
6. 学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	85.4%	81.3%	C
7. 学習基盤力の向上率（1年の4月成績→2月成績）（※R6年度から実施予定） （※TOEICスコアの比較） ※平均値等は、R6の実績（向上率）で設定	0.9%	0.9%	A
8. 学習専門力の向上率（3年→4年） （※専門力テストの正解率の比較） ※平均値等は、大学として設定した目標値	10.0%	-3.8%	C
9. 学生の管理運営参加状況（※R6年度から実施） ※平均値等は、R5の実施件数	3件	4件	A
10. 獣医師国家試験の合格率 ※平均値等は、R5年度全国平均	81.1%	94.6%	A
11. 学生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R5年度の上記の実績（※R5年度から達成度確認のため）	88.9%	75.3%	C

自己点検評価項目に関する検証

<p>【平均値等を下回った項目】 「教員のFD・SD参加率」「学位取得率」「学習専門力の向上率（3年→4年）」「学生のディプロマ・ポリシー達成度」</p>

改善案

<p>「教員のFD・SD参加率」：FD・SD活動への参加率の向上を図るため、実施内容や方法、周知手段等の改善に加え、オンデマンド型での受講についても正式な参加として認定する対応を進めている。これにより、教職員の勤務形態や時間的制約に配慮した柔軟な参加形態を整備し、全体としての参加率向上を目指す。</p> <p>「学位取得率」：学位取得率の低下については、留年者の増加が主要因と分析されている。標準修業年限内での修了を促進するため、クラス担任、ユニット担任、指導教員による情報共有と連携を強化するとともに、学生相談室とも連携し、修学上および生活上の課題を抱える学生に対して早期に対応できる体制を構築することで、学修の継続および修了に向けた総合的なサポートの充実を目指す。</p> <p>「学習専門力の向上率（3年→4年）」：3年次から4年次への進級に際して、ユニット全体としての専門力が十分に維持されていない傾向が昨年度と同様に確認されている。これは、4年次において各学生が所属研究室の専門分野に特化する傾向が強まり、ユニット全体に共通する基盤的専門性の学修が相対的に希薄となることが一因と考えられる。4年次以降においてもユニット全体としての専門力が継続的に保持されるよう、各教員が共通認識をもつとともにIR室での分析を踏まえながら、組織的に指導を行う体制の強化を検討したい。</p> <p>「学生のディプロマ・ポリシー達成度」：R5年度卒業生のディプロマ・ポリシー達成度は平均値を上回っていたが、R6年度卒業生においては平均値を下回る結果となった。今後は、学生がディプロマ・ポリシーを修学全体の指針として継続的に意識できるよう、入学時のオリエンテーションをはじめとする各段階での周知を強化し、教育活動のあらゆる場面においてポリシーとの整合性が確保されるよう取り組みを継続するとともに、ディプロマ・ポリシーの達成が可能となるようなカリキュラムにするなど、カリキュラムポリシーの運動も考慮する。</p>
--

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	2. 大学院教育
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R6年度実績	自己評価
1. 修士学生の授業評価（カリキュラム満足度） ※R6度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	85.0%	89.7%	A
2. 修士修了生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R6年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	85.1%	96.7%	A
3. 修士学生の共同研究参加率 ※平均値等は、H28年度～R3年度の第3期中期計画の目標値	40.0%	23.9%	C
4. 修士学生の学会参加率（※学会発表率） ※平均値等は、H28年度～R3年度の第3期中期計画の目標値	40.0%	60.0%	A
5. 修士学生の予定年限内学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	87.2%	87.7%	A
6. 博士学生の授業評価（カリキュラム満足度） ※R6度実績は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	75.9%	87.8%	A
7. 博士修了生のディプロマ・ポリシー達成度 ※R5年度実績は、5段階評価（択一）の「達成」「ほぼ達成」の割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の上記の割合の平均	91.7%	100.0%	A
8. 博士修了生の学術論文数（ファーストのみ）／人 ※平均値等は、標準レベルを2編と判断して設定	2.0編	1.4編	C
9. 博士学生の学会等での発表数／人 ※平均値等は、標準レベルを2.5回と判断して設定	2.5回	1.27回	C
10. 博士学生の予定年限内学位取得率 ※平均値等は、R1年度～R3年度の取得率を参考にした目標値	60.0%	45.4%	C

自己点検評価項目に関する検証

<p>【平均値等を下回った項目】 「修士学生の共同研究参加率」「博士修了生の学術論文数」「博士学生の学会等での発表数」「博士学生の予定年限内学位取得率」</p>
--

改善案

<p>「共同研究参加率」：近年はNDA（秘密保持契約）に基づく共同研究が増加しており、企業との連携に修士学生が参画しにくい事例が増えている。こういった状況下ではあるが、大学院教育部会議において、指導教員に指導学生への声掛け依頼等を行うことにより、学生の共同研究への参画や学会発表を促し、第3期中の達成目標である「40%」を上回ることができるようにしていきたい。</p> <p>「博士修了生の学術論文数」：オープンアクセス化の進展により、学術論文の掲載費が高騰しており、博士課程における論文発表のハードルとなっている。こういった状況を解消するため、大学からの経済的支援により学術論文を投稿しやすい環境を作っていくたい。</p> <p>「博士学生の学会等での発表数」：宿泊費や交通費等の高騰により学会参加の金銭的負担が増している点も、参加率の低下に影響していると考えられる。こういった状況を解消するため、大学からの経済的支援により学会に参加しやすい環境を作っていくたい。</p> <p>「博士学生の予定年限内学位取得率」：取得できない理由についてひとりずつ精査し、主指導教員と副指導教員による多面的な指導により、適切な対応をとっていくたい。</p>
--

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	5-2. リカレント教育（農畜産分野） 5-1. リカレント教育（獣医学分野）
担当責任者	教育支援室長
会議等	教育支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R6年度実績	自己評価
1. 市民開放授業科目数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	15科目	17科目	A
2. 市民開放授業受講者数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	11人	32人	A
3. 市民開放授業受講者の満足度 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均が100%であったことから、R4年度実績で設定	88.9%	93.3%	A
4. 大学院における社会人入学者数 ※平均値等は、R2年度～R3年度（※改組後2カ年）の平均	5人	3人	C
5. 長期履修者の期間内学位取得率 ※平均値等は、R2年度～R3年度（※改組後2カ年）の平均が100%であったことから、大学独自判断で90%に設定	90.0%	100%	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「大学院における社会人入学者数」

改善案

「大学院における社会人入学者数」：
社会人の方が本学の大学院でスキルアップをしたくなるような、学ぶ魅力等を十分に発信していきたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	5-1. リカレント教育（獣医学分野）
担当責任者	獣医学分野推進室長
会議等	高度人材共創センター運営委員会

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	平均値等	R6年度実績	自己評価
6. 履修証明プログラム開設件数（※R7から開設予定）	0件	0件	
7. 履修証明プログラム修了者数（※R7から開設予定）	人	人	
8. 履修証明プログラム修了者の満足度（※R7から開設予定） ※5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合	%	%	

自己点検評価項目に関する検証

※R6は獣医学系の履修証明プログラムは開設していない。

改善案

※R6は獣医学系の履修証明プログラムは開設していない。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	5-2. リカレント教育（農畜産分野）
担当責任者	農畜産分野推進室長
会議等	高度人材共創センター運営委員会

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	※R6年度実績	自己評価
6. 履修証明プログラム開設件数 ※平均値等は、R5年度実績	1件	1件	A
7. 履修証明プログラム修了者数 ※平均値等は、R5年度実績	29人（定員 20名）	17人	C
8. 履修証明プログラム修了者の満足度 ※平均値等は、5段階評価（択一）の「満足」「やや満足」の割合のR5年度実績	82.8%	100.0%	A

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「履修証明プログラム修了者数」

改善案

「履修証明プログラム修了者数」：
企業や関連団体と連携し、社会人がスキルアップとして何を求めているか、企業団体が何を期待しているかというニーズを明確にし、的確なプログラムを用意する。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6-1. 学生支援（全体）
担当責任者	学生・課外活動支援室長
会議等	学生・課外活動支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R6年度実績	自己評価
1. 留年率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.6%	1.7%	A
2. 休学率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.4%	2.8%	A
3. 退学率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	1.1%	0.7%	A
4. 学生相談室利用者の卒業率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	88.6%	61.9%	C
5. 経済的な理由による休学者（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	3.7人	3人	A
6. 経済的な理由による退学者（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	1.3人	0人	A
7. 学生生活の満足度（5段階評価） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	4.2	4.3	A
8. 学生寮入居者の満足度（5段階評価）（※R5から実施） ※平均値等は、R5年度の実績	3.5	3.5	A
9. 課外活動支援（※R5から実施） ※「活動資金の支援」「学生表彰」の2項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値（※R5年度実績）	2.5	2.5	A
10. 経済的支援（※R5から実施） ※「大学独自の奨学金による支援」「大学独自の授業料免除制度による支援」「廉価な学生寄宿舎の提供による支援」の3項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値（※R5年度実績）	3.7	4.3	A

自己点検評価項目に関する検証

学生相談室利用者の卒業率（学部）の項目で平均値等を下回った。

改善案

様々な要因により学生相談室の利用者は増加しており、相談内容も多様化・複雑化している。今後は、相談内容の分析や相談者の追跡調査を継続的に行い、学生相談室・特別修学支援室・学生支援課・教務課が連携して、利用者および関係教員に対して適切な対応・指導・配慮を行うことで、卒業率の向上につなげていきたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6-2. 学生支援（留学生）
担当責任者	留学生支援室長
会議等	留学生支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R6年度実績	自己評価
1. 留学生支援 ※「国際交流会館入居者の満足度」「チューターの配置」「レジデンスアシスタントの配置」「留学生への経済的支援」「日本人学生への留学支援」の5項目について、それぞれ5段階で自己評価した評価値の平均値	3.4	3.6	A

自己点検評価項目に関する検証

国際交流会館の住環境改善のため、ボイラーの温度調整や網戸の設置などの改修を実施した。また、「畜大生グローバルチャレンジ」では、急激な円安と航空券代の高騰に対応するため、来年度の支援額増額に向け検討を行った。

改善案

チューター制度では対応しきれない部分を補うため、引き続き留学生サポートデスクを開設し、支援体制のさらなる充実を図りたい。レジデントアシスタントについては認知度が十分とはいえない状況にあることから、周知方法の見直しおよび改善に向け検討を進めたい。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	6-3. 学生支援（障がいのある学生）
担当責任者	特別修学支援室長
会議等	特別修学支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R6年度実績	自己評価
1. 障がいのある学生への支援 ※相談のあった学生に対し、実際に特別な対応を実施した割合 ※平均値等は、R1年度～R3年度の「支援件数/特別修学支援申請件数」の平均	89.6%	93.3%	A

自己点検評価項目に関する検証

昨年度より僅かに実績は下回ったものの、平均値は上回っている。学生が提出する申請書の提出が支援可能な時期より遅れたことなどが、達成率が100%とならなかった要因である。

改善案

今後も速やかな申請が行われるよう、丁寧な説明および周知を行っていくとともに、引き続き、障がいのある学生に対して、特別修学支援室・学生相談室・学生支援課・教務課が連携して、適切な支援を実施していく。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	7. 就職支援
担当責任者	就職支援室長
会議等	就職支援室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※平均値等	R6年度実績	自己評価
1. 就職・進学率 ※平均値等は、直近で公表されている2023年度の全国国立大学の就職・進学率	94.2%	95.2%	A
2. 就職に対する満足度 ※5段階評価 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	4.5	4.5	A
3. 就職ガイダンス等の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	40回	40回	A
4. 個別就職相談会の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	37回	56回	A
5. 会社説明会・業界研究会参加企業・団体数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	156社	201社	A
6. キャリア関連授業の実施回数 ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	25回	27回	A
7. 就職学生のオープンカンパニー・インターンシップ経験率（学部） ※平均値等は、R1年度～R3年度の平均	43.0%	73.6%	A
8. その他の就職支援の取組み ※「就職ガイダンス」「合同企業説明会」「インターンシップ事業」の3項目についての参加学生アンケートの5段階評価のR5年度の平均値	4.6	4.6	A

自己点検評価項目に関する検証

長年の課題であった就職・進学率の実績は、平均値等を上回る結果となった。また、就職ガイダンス等の実施回数は昨年度より減らし、学生のニーズに応じて個別就職相談会の回数を増加させて実施した。

改善案

引き続き、すべての項目において平均値を上回る成果を目指し、就職支援室において学生の意見を聴取しながら、効果的な就職ガイダンスや合同企業研究会等の実施につなげる。また、指導教員および学生支援課から学生に対して適切な助言と指導を行うことにより、学生の就職に対する満足度の向上を図る。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	8. 学部入試
担当責任者	入学者選抜方法研究室長
会議等	入学者選抜方法研究会会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※比較基準値	※R6年度実績	自己評価
1. 出願者数（一般前期，獣医）	0.12 人/千人	0.10人/千人	C
2. 出願者数（一般前期，畜産）	0.24 人/千人	0.24人/千人	A
3. 出願者数（一般後期，獣医）	0.09 人/千人	0.12人/千人	A
4. 出願者数（一般後期，畜産）	0.19 人/千人	0.17人/千人	C
5. 出願者数（A推薦）	0.02 人/千人	0.02人/千人	A
6. 出願者数（B推薦）	0.06 人/千人	0.07人/千人	A
※1～6の比較基準値算出方法：令和元年度～令和3年度の出願者数の平均（人）÷令和3年度卒業の18歳人口（千人）			
※1～6のR6年度実績算出方法：令和6年度の出願者数（人）÷令和6年度卒業の18歳人口（千人）			
7. 合格者の得点のZ値の平均（一般前期，獣医）	1.22	1.23	A
8. 合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）	0.29	0.22	C
9. 合格者の得点のZ値の平均（一般後期，獣医）	1.06	1.27	A
10. 合格者の得点のZ値の平均（一般後期，畜産）	0.54	0.61	A
※7～10の比較基準値=Z値算出方法：（令和3年度の本学合格者の共通テスト得点-令和3年度の共通テスト全国平均）÷令和3年度の共通テストの標準偏差			
※7～10のR6年度実績値=Z値算出方法：（令和6年度の本学合格者の共通テスト得点-令和6年度の共通テスト全国平均）÷令和6年度の共通テストの標準偏差			
11. 合格最低点者の得点のZ値（一般前期，獣医）	0.71	0.87	A
12. 合格最低点者の得点のZ値（一般前期，畜産）	-0.32	-0.44	C
13. 合格最低点者の得点のZ値（一般後期，獣医）	0.72	0.83	A
14. 合格最低点者の得点のZ値（一般後期，畜産）	-0.12	0.21	A
※11～14の比較基準値=Z値算出方法：（令和3年度の本学合格最低点者の共通テスト得点-令和3年度の共通テスト全国平均）÷令和3年度の共通テストの標準偏差			
※11～14のR6年度実績値=Z値算出方法：（令和6年度の本学合格最低点者の共通テスト得点-令和6年度の共通テスト全国平均）÷令和6年度の共通テストの標準偏差			
15. 受験率（一般前期）	96.84%	95.37%	C
※15の比較基準値算出方法：平成30年度～令和3年度の受験者数の平均÷平成30年度～令和3年度の出願者数の平均 × 100			
※15のR6年度実績算出方法：令和6年度の受験者数÷令和6年度の出願者数 × 100			
16. 辞退率（一般前期）	5.19%	4.19%	A
※16の比較基準値算出方法：平成30年度～令和3年度の辞退者数の平均÷平成30年度～令和3年度の入学人数の平均 × 100			
※16のR6年度実績算出方法：令和6年度の辞退者数÷令和6年度の入学人数 × 100			
	R5年度実績	R6年度実績	
17. 入試改善の取組（受験者アンケート）	59.76%	58.19%	C
※17の実績算出方法：受験者アンケートの試験時間の長さ、試験の難易度、科目の構成に関する設問の「適当だった」「ちょうどよい」「今の条件で良い」と答えた方の割合			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】 「出願者数（一般前期，獣医）」「出願者数（一般後期，畜産）」「合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）」「受験率（一般前期）」「入試改善の取組（受験者アンケート）」
--

改善案

「出願者数（一般前期，獣医）」「出願者数（一般後期，畜産）」「合格者の得点のZ値の平均（一般前期，畜産）」平均値等を上回る得点で入学してもらえるよう、在学生の講義・実習等に対する満足度を上げ、それを入試広報で取り上げるなど、改善していきます。 「受験率（一般前期）」 受験しなかった志願者の理由をIR等で明確にし、適切な対応をとります。 「入試改善の取組（受験者アンケート）」 本学が実施する入学試験に対する印象を調査した項目です。長期的に調査し、各項目が50%を割り込むことになった場合、試験の難易度以外の項目について受験者が受験しやすい内容に改善していきます。
--

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	9. 大学院入試
担当責任者	入学者選抜方法研究室長
会議等	入学者選抜方法研究室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	※比較基準値	※R6年度実績	自己評価
1. 受験倍率（畜産前期）	1.07倍	1.11倍	A
2. 受験倍率（畜産後期）	1.00倍	1.00倍	A
3. 受験倍率（獣医博士）	1.00倍	1.08倍	A
※1～3の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の実験者数の平均÷平成30年度～令和4年度の合格者数の平均			
※1～3のR6年度実績算出方法：令和6年度の実験者数÷令和6年度の合格者数			
4. 学内出願率（畜産前期）	26.00%	26.20%	A
※4の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の学内出身出願者数の平均÷平成30年度～令和4年度の卒業生数の平均 × 100			
※4のR6年度実績算出方法：令和6年度の学内出身出願者数÷令和6年度の卒業生数 × 100			
5. 他大学出身の出願率（博士前期）	12.90%	8.33%	A
※5の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の外大学出身出願者数の平均÷入学定員 × 100			
※5のR6年度実績算出方法：令和6年度の外大学出身出願者数÷入学定員 × 100			
6. 社会人出願者数（畜産前期）	1.60人	2人	A
7. 社会人出願者数（博士）	2.60人	1人	C
※6～7の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の出願者数の平均			
※6～7のR6年度実績算出方法：令和6年度の出願者数			
8. 外国人留学生出願者数（博士前期）	8.00人	9人	A
9. 外国人留学生出願者数（博士）	9.80人	14人	A
※8～9の比較基準値算出方法：平成30年度～令和4年度の出願者数の平均			
※6～7のR6年度実績算出方法：令和6年度の出願者数			
10. 辞退率（一般前期）	5.50%	16.27%	C
※10の比較基準値算出方法：令和元年度～令和4年度の辞退者数の平均÷令和元年度～令和4年度の入学人数の平均 × 100			
※10のR6年度実績算出方法：令和6年度の辞退者数÷令和6年度の入学人数 × 100			
11. 入試改善の取組（受験者アンケート）（※R6年度から実施）	73.27%	73.27%	A
※11の実績算出方法：受験者アンケートの試験時間の長さ、試験の難易度、科目の構成に関する設問の「適当だった」「ちょうどよい」「今の条件で良い」と答えた方の割合			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
 「社会人出願者数（博士）」
 「辞退率（一般前期）」

改善案

「社会人出願者数（博士）」
 学部卒業学生に対する指導教員からの働きかけを積極的に行うことなどにより、引き続き改善していきます。

「辞退率（一般前期）」
 辞退する受験生の理由を明らかにし、適切に対応します。

自己点検・評価シート

自己点検評価項目	10. 入試広報
担当責任者	入試広報室長
会議等	入試広報室会議

自己点検・評価手順：

- ・担当責任者は、「教育の自己点検・評価実施要領」に基づき、自己点検・評価を実施する。
- ・各項目の平均値等設定の例：
 - ①アンケート調査等の集計結果で直近3年間の平均値等
 - ②全国調査の平均値等
 - ③アセスメントポリシーで定める学修成果の実績等
- ・各項目の前年度実績に対する自己評価は、各会議等での審議によって決定する。
 - A：基準を満たしており、適切に実施している。
 - B：基準を満たしているが、一部改善が必要である。
 - C：基準を満たしておらず、実施が不十分である。
- ・自己・点検評価は原則として、毎年度実施するが、各項目の実施時期は必要に応じて変更できる。
- ・担当責任者は、各会議等において自己点検評価項目に関する検証をし、実施責任者に「自己点検・評価シート」を提出する。また、改善が必要と認められるものについては、改善案を策定し、実施責任者に提出する。

項目	基準年(R1)実績	前年度実績	自己評価
1. オープンキャンパス参加者数（保護者を除く）	562人	596人	A
※2. オープンキャンパス参加者の満足度	98.2%	100.0%	A
※2の実績の算出方法：オープンキャンパス参加者アンケートの満足度調査項目の「大変満足」「だいたい満足」と回答した方の割合			
	※比較基準値	前年度実績	
3. オープンキャンパスの高校3年生参加者のうちその年度の出願者数	125人	83人	C
※3の比較基準値算出方法：平成28年度～令和元年度の出願者数の平均			
4. アドミッション・ポリシーの理解度	78.0%	81.5%	A
※4の比較基準値算出方法：令和元年度～令和4年度の出願者アンケートでアドミッションポリシーを「知っている」と回答した方の平均値			

自己点検評価項目に関する検証

【平均値等を下回った項目】
「オープンキャンパスの高校3年生参加者のうちその年度の出願者数」

改善案

「オープンキャンパスの高校3年生参加者のうちその年度の出願者数」
昨年度から、オープンキャンパス開催に関する情報を受付直前から数週間早めてホームページに詳細な内容を掲載するようにしたことにより、オープンキャンパス参加者は増加した。
「オープンキャンパスの高校3年生参加者のうちその年度の出願者数」は減少はしているが、引き続き早めに詳細案内を広報していくとともに、更に高校2年生以下でオープンキャンパスに参加した出願者等に関しての分析・フォローをすすめていきたい。